



2021
No.367 10月号

News

全国整備工場の皆様へ
NGP組合員200拠点がお届けする
お役立ち情報

2021年10月19日発行
■発行責任者/佐藤幸雄 ■編集・制作/(株)プロトリオス
■発行/(株)NGP 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F TEL03(5475)1200

鶴住居小学校でNGPバーチャル工場見学会を実施

東日本大震災の被災校の子どもたちへ向けて 教育支援活動を展開

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合(佐藤幸雄理事長)は9月3日、鶴住居(うのすまい)小学校(岩手県釜石市)の小学4年生28名に対し、バーチャル工場見学会を実施しました。

釜石市鶴住居地区は、2011年3月に発生した東日本大震災で津波による被害が特に大きかった地域の1つです。NGPは、東日本大震災の被災校の子どもたちを支援したいという強い思いから、2012年より協賛会社としてベルマーク運動に参加しています。また、ベルマーク運動においても、鶴住居小学校は被災校として重点的な支援の対象となっています。

今回のバーチャル工場見学会は、コロナ禍でも子どもたちに体験を交えた学びの機会を提供したいという思いから、ベルマーク財団を通して誘致を行ったところ、鶴住

居小学校より申し込みを受けて実現したものです。

NGPにとって、東日本大震災の被災校から申し込みをいただき、そこに通う子どもたちへ向けた教育支援に直接携われたことは、とても意義深く、感慨深いものとなりました。

バーチャル工場見学会ではWeb会議システムを活用して、実際に工場見学しているかのように、自動車リサイクルの一連の流れを動画で楽しく学ぶことができます。

また、NGPが使用済み自動車の取扱説明書から作成した「環境教育ノート」を参加者全員に配布し、使用してもらうことで、自動車リサイクルを題材として、廃棄物の排出抑制や資源循環の大切さ、アップサイクルの概念を知ってもらうきっかけへとつなげることができました。

重機が車体を解体する迫力のあるシーンが流れると、子どもたちから歓声が上がり、質疑応答の時間では、「ニブラ(重機)の重さはどのくらい?」、「リサイクルされる車が一番多い都道府県はどこ?」、「1台の車を解体するのにかかる時間はどのくらい?」、「車をリサイクルする上で一番大変な作業は何?」など、多くの質問が寄せられました。自動車リサイクルの工程や工場の仕事内容に対する子どもたちの関心の高さがうかがえるとともに、体験を交えた学びの大切さを改めて感じることができました。

今後も、全国各地の学校でバーチャル工場見学会を実施することが決まっています。引き続き自動車リサイクル事業を通じて、これからの時代を担う子どもたちへ向けた教育支援活動に取り組んで参ります。



実際の工場見学さながらの動画に興味津々



動画内の「環境クイズ」に、積極的に参加する子どもたち



「環境教育ノート」を使用して、学習内容をしっかりとメモ



自動車リサイクルの工程や仕事内容について、多くの質問が寄せられた

自検協・全軽自協、世帯当たり普及台数を発表

保有台数の伸び率鈍化を受けて 世帯当たりの普及台数は減少傾向に

自動車検査登録情報協会（自検協）は8月31日、2021年3月末時点における自家用乗用車（登録車と軽自動車の合算）世帯当たり普及台数を発表しました（表1）。

それによれば、自家用乗用車保有台数は前年度より約11万台多い6,170万3,226台で、外国人住民を含めた世帯数は前年度より約42万世帯多い5,949万7,356世帯でした。保有台数に比べ世帯数の伸びが大きかったため、世帯当たり自家用乗用車普及台数は昨年度から0.006台減少し、1.037台となりました。近年は保有台数の伸び率の鈍化によって、世帯当たりの普及台数はやや減少傾向にあります（グラフ1）。

また、全国軽自動車協会連合会（全軽自協）は8月19日、2020年12月末時点の軽四輪車世帯当たり普及台数を発表しました（表2）。

軽四輪車の保有台数は前年より約15万6千台多い3,137万2,882台で、外国人世帯を除く世帯数は前年より約47万4千世帯多い5,785万4,887世帯でした。その結果、軽四輪車の世帯当たり普及台数は前年より0.0017台減り、0.5423台となりました。

世帯当たり普及台数の都道府県別順位では、自家用乗用車と軽四輪車とも下位は東京都、大阪府、神奈川県の人口密集地が占めていました。一方、普及台数の上位では自家用乗用車が福井県、富山県、山形県、群馬県、栃木県と前年同様の順で並びました。なお、この上位5県の並びは2014年から8年連続となります。軽四輪車では5位が前年の福井県から山形県へ入れ替わり、長野県、鳥取県、佐賀県、島根県、山形県の順位となりました。

表1 自家用乗用車保有台数と世帯当たり普及台数
（都道府県別・ランク順）

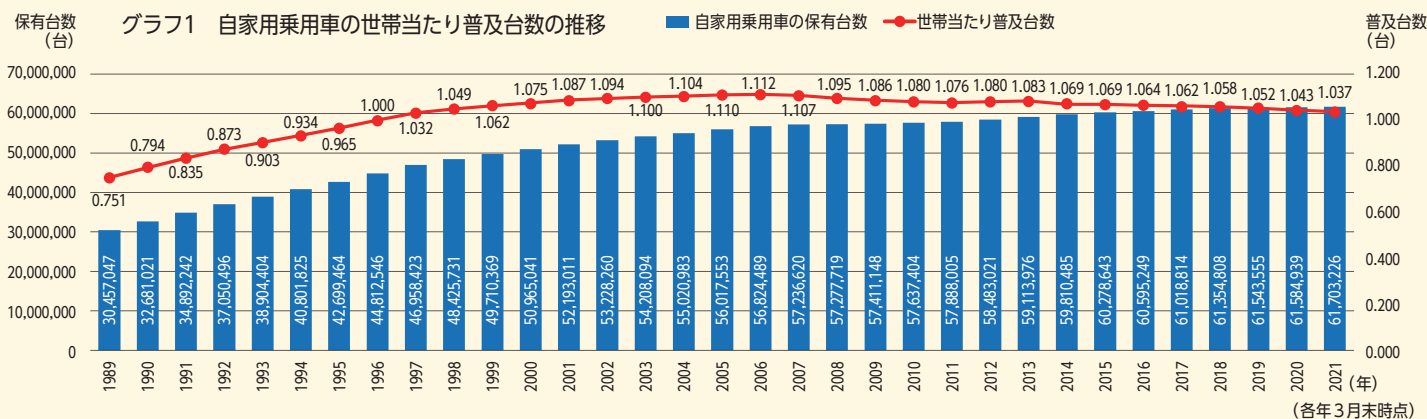
2021年3月末時点 出典：自動車検査登録情報協会

都道府県	保有台数	世帯数	1世帯当たり 台数	順位	前年 順位
福井	513,569	299,489	1.715	1	1
富山	709,897	427,568	1.660	2	2
山形	692,443	418,707	1.654	3	3
群馬	1,381,194	862,320	1.602	4	4
栃木	1,341,437	848,315	1.581	5	5
長野	1,379,397	880,387	1.567	6	7
茨城	1,991,256	1,272,765	1.565	7	6
岐阜	1,300,413	837,617	1.553	8	8
福島	1,221,810	792,044	1.543	9	9
山梨	559,499	365,136	1.532	10	11
新潟	1,389,343	907,659	1.531	11	10
佐賀	509,560	339,161	1.502	12	12
石川	725,800	492,351	1.474	13	13
鳥取	346,500	239,170	1.449	14	14
三重	1,163,627	806,290	1.443	15	15
島根	409,129	292,968	1.396	16	16
岩手	740,615	530,800	1.395	17	17
静岡	2,229,302	1,612,307	1.383	18	18
秋田	587,596	425,698	1.380	19	19
滋賀	811,106	596,167	1.361	20	20
徳島	457,436	337,478	1.355	21	22
岡山	1,164,642	859,930	1.354	22	21
香川	592,303	445,747	1.329	23	23
熊本	1,038,391	792,950	1.310	24	24
沖縄	869,556	676,643	1.285	25	25
大分	694,259	541,588	1.282	26	27
宮崎	677,920	529,506	1.280	27	28
宮城	1,298,009	1,016,612	1.277	28	26
愛知	4,205,378	3,369,137	1.248	29	29
山口	819,362	660,853	1.240	30	30
和歌山	543,387	442,178	1.229	31	31
青森	726,050	594,459	1.221	32	32
鹿児島	955,482	810,817	1.178	33	33
愛媛	746,212	656,649	1.136	34	34
高知	396,913	351,413	1.129	35	35
長崎	699,513	633,550	1.104	36	37
広島	1,461,682	1,329,862	1.099	37	36
奈良	651,919	601,195	1.084	38	38
福岡	2,618,388	2,473,308	1.059	39	39
北海道	2,790,389	2,795,571	0.998	40	40
千葉	2,829,288	2,964,119	0.955	41	41
埼玉	3,222,311	3,397,969	0.948	42	42
兵庫	2,315,188	2,574,868	0.899	43	43
京都	997,650	1,231,277	0.810	44	44
神奈川	3,053,067	4,429,961	0.689	45	45
大阪	2,779,374	4,391,310	0.633	46	46
東京	3,095,664	7,341,487	0.422	47	47
合計	61,703,226	59,497,356	1.037		

表2 軽四輪車保有台数と世帯当たり普及台数
（都道府県別・ランク順）

2020年12月末時点 出典：全国軽自動車協会連合会

都道府県	保有台数	世帯数	1世帯当たり 台数	順位	前年 順位
長野	891,126	861,300	1.03	1	1
鳥取	242,433	236,021	1.03	2	2
佐賀	341,143	333,915	1.02	3	3
島根	290,460	287,419	1.01	4	4
山形	414,391	414,498	1.00	5	6
福井	288,631	289,449	1.00	6	5
山梨	339,647	356,147	0.95	7	7
新潟	834,261	897,270	0.93	8	9
沖縄	612,580	664,880	0.92	9	8
宮崎	476,983	523,596	0.91	10	10
徳島	301,074	332,806	0.90	11	11
和歌山	396,009	437,923	0.90	12	12
富山	371,448	415,706	0.89	13	13
岩手	463,170	525,702	0.88	14	14
秋田	372,854	423,213	0.88	15	15
鹿児島	699,341	801,902	0.87	16	17
岡山	730,041	837,927	0.87	17	16
高知	302,924	347,988	0.87	18	19
香川	378,784	435,352	0.87	19	18
熊本	666,622	779,562	0.86	20	20
群馬	707,865	827,834	0.86	21	21
三重	656,783	774,169	0.85	22	23
福島	664,301	783,112	0.85	23	22
岐阜	678,096	803,470	0.84	24	24
大分	447,347	531,775	0.84	25	25
長崎	508,129	626,389	0.81	26	27
滋賀	466,931	576,818	0.81	27	26
愛媛	522,138	646,123	0.81	28	28
青森	460,801	590,218	0.78	29	29
茨城	952,644	1,230,032	0.77	30	30
山口	497,199	649,138	0.77	31	31
静岡	1,181,430	1,560,065	0.76	32	33
栃木	622,265	823,166	0.76	33	32
石川	359,606	481,391	0.75	34	34
広島	826,071	1,292,974	0.64	35	35
宮城	633,163	1,001,583	0.63	36	36
奈良	354,862	592,765	0.60	37	37
福岡	1,361,065	2,417,699	0.56	38	38
愛知	1,665,922	3,224,656	0.52	39	39
兵庫	1,096,136	2,509,216	0.44	40	40
京都	517,599	1,192,474	0.43	41	41
北海道	1,182,226	2,767,595	0.43	42	42
千葉	1,197,585	2,873,204	0.42	43	43
埼玉	1,367,147	3,293,938	0.42	44	44
大阪	1,188,714	4,241,699	0.28	45	45
神奈川	1,003,842	4,315,172	0.23	46	46
東京	839,093	7,025,636	0.12	47	47
合計	31,372,882	57,854,887	0.54		



日整連、第51回「整備需要等の動向調査」を発表

整備売り上げ実績・予想・景況感とも、全業態で改善

日本自動車整備振興会連合会（日整連）は9月14日、第51回「整備需要等の動向調査」の集計結果を発表しました。調査は2021年7月時点のもので、全国の專業認証250、專業指定412、ディーラー指定317の計979工場から回答を得ています。

それによると、2021年1～6月の総売上高DI*は2.2で、前期（2020年7～12月、-37.9）に比べて40.1ポイント上昇しました。総整備売上高DIがプラスに転じたのは、

2017年7月以来4年ぶりで、上げ幅は過去最大です。業態別に見ると、專業認証は34.3ポイント上昇し-20.8、專業指定は32.7ポイント上昇し-3.7、ディーラーは54.3ポイント上昇し+27.8でした。

同期の総入庫台数DIは-3.5で、前期（-42.7）に比べて39.2ポイント上昇し、こちらも過去最大の上げ幅となりました。業態別では專業認証が28.7ポイント上昇し-25.2、專業指定は35.0ポイント上昇し

-3.1、ディーラーは52.6ポイント上昇し+12.9でした。

全業種で両DIが大幅に上昇しており、特にディーラーは両DIともプラスに転じました。日整連は「2021年1～6月の継続検査台数（登録車+軽自動車）が前年同期比で7.3%増加したこと、自動車整備費や自動車等部品・関連用品への家計支出額が増加したこと（総務省家計調査）などが、両DIの改善につながったものと考えられます。2021年1月に2回目となる緊急事態宣言が発令されましたが、適用地域が最大11都府県であったこと、自粛要請対象となる業種が絞り込まれていたことなどから、影響は限定的であったと思われます」との見解を示しています。

2021年7～12月期の予想整備売上高DIは-16.3で、前回調査（-38.9）に比べて22.6ポイント上昇、同期の予想総入庫台数DIは-17.9で、前回（-42.0）に比べて24.1ポイント上昇しました。業態別に見ると、專業認証が予想整備売上高DI-34.0（前回比+19.4）・予想総入庫台数DI-34.0（同+22.4）、專業指定が同-21.4（+21.3）・-20.4（+22.8）、ディーラーが同+4.1（+27.2）・-2.2（+27.5）と、全業態で業績の改善を予想していることが示されました。

景況感DIは前回（-63.8）より20.8ポイント改善し-43.0で、調査開始以来最良となりました。しかし「最良」とはいえマイナス圏内にあり、多くの整備事業者は依然として「景気が悪い」と感じていることが分かります。

また、事業場における人材確保の状況を調査することを目的として、「整備士（労働力）の過不足感」、「整備士の求人募集の実績」の2設問が、今回の調査より新たに追加されました。

それによると、2021年6月末時点における整備士（労働力）過不足DIは-57.0で、業態別では特にディーラーで不足感が顕著でした。募集経路は、ハローワークが38.3%と最も多く、複数経路を併用している事業場もありました。

*DI=プラス成長（景況感DIでは「かなり良い」+「やや良い」、過不足DIでは「過剰」+「やや過剰」と回答した事業者の割合-マイナス成長（景況感DIでは「かなり悪い」+「やや悪い」、過不足DIでは「不足」+「やや不足」と回答した事業者の割合

表1 直近半年間の実績・今後半年間の業績予想

		直近半年間の実績		今後半年間の業績予想	
		総整備売上高	総入庫台数	総整備売上高	総入庫台数
專業認証	プラス成長 (%)	25.6	22.4	14.4	13.6
	マイナス成長 (%)	46.4	47.6	48.4	47.6
	DI	-20.8	-25.2	-34.0	-34.0
專業指定	プラス成長 (%)	31.3	29.9	18.9	18.7
	マイナス成長 (%)	35.0	33.0	40.3	39.1
	DI	-3.7	-3.1	-21.4	-20.4
ディーラー	プラス成長 (%)	50.8	42.6	33.4	32.8
	マイナス成長 (%)	23.0	29.7	29.3	35.0
	DI	27.8	12.9	4.1	-2.2
合計	プラス成長 (%)	36.2	32.1	22.5	22.0
	マイナス成長 (%)	34.0	35.6	38.8	39.9
	DI	2.2	-3.5	-16.3	-17.9

表2 景況感

專業認証	かなり良い (%)	0.8
	やや良い (%)	7.2
	やや悪い (%)	48.4
	かなり悪い (%)	14.8
專業指定	かなり良い (%)	0.7
	やや良い (%)	7.3
	やや悪い (%)	44.9
	かなり悪い (%)	10.0
ディーラー	かなり良い (%)	0.0
	やや良い (%)	14.8
	やや悪い (%)	38.2
	かなり悪い (%)	5.0
合計	かなり良い (%)	0.5
	やや良い (%)	9.7
	やや悪い (%)	43.6
	かなり悪い (%)	9.6
DI		-43.0

表3 整備士（労働力）の過不足の状況

專業認証	過剰	0.4
	やや過剰	2.0
	やや不足	24.4
	不足	17.2
專業指定	過剰	1.0
	やや過剰	2.2
	やや不足	35.9
	不足	24.0
ディーラー	過剰	0.6
	やや過剰	1.3
	やや不足	37.9
	不足	35.3
合計	過剰	0.7
	やや過剰	1.8
	やや不足	33.6
	不足	25.9
DI		-57.0

表4 整備士の求人募集の実績（複数回答）

專業認証	ハローワークに求人申し込み	13.6%
	民間求人サービスに掲載	4.0%
	自社Webサイトに掲載	2.4%
	何もしていない	79.6%
專業指定	ハローワークに求人申し込み	44.2%
	民間求人サービスに掲載	12.4%
	自社Webサイトに掲載	8.0%
	何もしていない	47.8%
ディーラー	ハローワークに求人申し込み	50.2%
	民間求人サービスに掲載	28.1%
	自社Webサイトに掲載	41.6%
	何もしていない	17.4%
合計	ハローワークに求人申し込み	38.3%
	民間求人サービスに掲載	15.3%
	自社Webサイトに掲載	17.5%
	何もしていない	46.1%
DI		3.9%
	無記入	1.5%

NGP 今月のCO₂削減量



リユース部品利用に伴うCO₂削減量

令和3年8月： **2,033t**

※自動車リサイクル部品産業共同研究会が、「自動車リサイクル部品による環境負荷低減効果の研究」の結果をもとに、NGPが販売したリユース部品の90品目（左右ある部品を含む）115品目を対象に算出した数値です。



リターナブル梱包材利用に伴うCO₂削減量

令和3年8月： **0.5t**

※リターナブル梱包材の利用に伴う削減効果はNGP協同組合独自のCO₂排出量削減の取り組みです。段ボールに代えて、専用梱包材を繰り返し使用することを前提に削減効果を算出しております。

日常点検の重要さと新点検項目の追加をアピール

国土交通省は自動車点検整備推進協議会など自動車関係団体等と協力し、9・10月の2ヵ月間を「自動車点検整備推進運動」強化月間として、カーユーザーへ向けて自動車の日常点検や定期点検整備の必要性・重要性を啓発する活動を展開しています。同運動における全国統一強化月間の重点項目では、「点検・整備の必要性や重要性の啓発（女性や10代から30代の若者世代の自動車ユーザーに重点を置く）」、「大型車に関する適切な点検・整備の実施方法についての啓発」とともに、「令和3年10月から始まる新点検項目“車載式故障診断装置の診断の結果”の実施についての周知・啓発」が掲げられています。

9月7日にはベルサール六本木（東京都港区）にて「令和3年度 自動車点検整備推進運動 記者発表会」を開催しました。挨拶に立った国土交通省自動車局整備課整備事業指導官の森内孝信氏は、「トラブルを未然に防ぎ、安全・安心なドライブを楽

しんでいただくには、ユーザー一人ひとりの点検整備に対する意識向上が欠かせません」と話し、「10月1日から12ヵ月点検の項目にOBD点検が追加されます。具体的な内容の周知や、定期点検実施率のさらなる向上に向けて啓発に力を入れていきます」と、各種周知活動に取り組む姿勢を強調しました。

平成6年から始まり28回目となる今回は、アニメ「鷹の爪団」のキャラクター吉田君とコラボレーションし、日常点検や定期点検整備の必要性及び重要性を伝える3本のスペシャルムービーを公開しました。同ムービーは特設サイトへの掲載だけでなく、YouTube動画広告による配信も行われる予定です。また、お笑いコンビ・さらば青春の光の森田哲矢氏も登場し、自動車の点検整備にまつわるトークやスペシャルムービーの生アテレコなどを行いました。その後、第22回全日本自動車整備技能競技大会優勝者である池田誠司氏（神中興業(株)、

神奈川県藤沢市）も参加し、車の基礎知識クイズ、実車を用いたタイヤ空気圧、エンジンオイル、ライト点灯のチェックといった日常点検、OBD点検のデモンストレーションなどを行いました。



さらば青春の光・森田哲矢氏（左）と国土交通省自動車局整備課整備事業指導官・森内孝信氏



神中興業(株)・池田誠司氏と森田氏による日常点検デモンストレーション

「笑う門には福来たる! NGP 年末大感謝キャンペーン」開催中!!

合計1,000名様に
豪華賞品を
プレゼント!

宝くじなどの賞品が抽選で当たる「笑う門には福来たる! NGP年末大感謝キャンペーン」を、9月1日～11月30日まで開催しております。NGPリサイクル部品に貼付されるギャランティシールを3枚集めてご応募いただいた方の中から、抽選で1,000名の方に宝くじなどの賞品

をプレゼントいたします。今回の1等賞品は、宝くじ1,000枚（もしくは30万円相当の商品券）です。応募用紙は各NGP組員より皆様に配布するほか、当組合Webサイト（<https://www.ngp.gr.jp/campaign/>）からダウンロードすること

も可能です。

なお、ギャランティシールに付帯しているベルマークは切り離し、ぜひ地域社会貢献にご活用いただきたくお願い申し上げます。

お一人様何口でもご応募いただけます。皆様からのご応募を心よりお待ちしております。

プレゼント内容

- 1等 「年末ジャンボ宝くじ 1,000枚」または「Amazonギフト券300,000円分」または「JCBギフト券 300,000円分」
+ 豊島オリブオイル50ml (1本) 1名様
- 2等 「年末ジャンボ宝くじ 100枚」または「Amazonギフト券30,000円分」または「JCBギフト券 30,000円分」
+ 豊島オリブオイル50ml (1本) 5名様
- 3等 「年末ジャンボ宝くじ 10枚」または「Amazonギフト券3,000円分」
または「JCBギフト券3,000円分」または「豊島オリブオイルセット3,000円相当」 994名様



組員情報変更

支部	会社名	変更内容	変更後	変更日
九州	有限会社イノクチ	会社代表	代表取締役 猪口秀毅	2021年4月1日

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合事務局

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL:03-5475-1208 FAX:03-5475-1209
<https://www.ngp.gr.jp/>

株式会社NGP

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL:03-5475-1200 FAX:03-5475-1201
<https://www.ngp.co.jp/>



FSC® 森林認証紙、ノン VOC インキ（石油系溶剤 0%）など印刷資材と製造工程が環境に配慮されたグリーンプリンティング認定工場にて、印刷事業において発生する CO₂ 全てをカーボンオフセット（相殺）した「CO₂ ゼロ印刷」で印刷しています。